**活動報告書**

報告日付：令和２年４月３０日

事業ID:2018486524

事業名：2019年度広島県尾道市における

第三の居場所（Ａ）の運営・3年目

団体名：社会福祉法人

尾道市社会福祉協議会

事業完了日：令和２年４月30日

1.事業内容

１．学習支援

　　・下校後すぐに宿題を済ませる習慣づけ

　　・学校との連携により、学習課題を共有する

　　・読み聞かせ（読書）とコミュニケーションの重視

２．遊びの充実

　　・個々の特性や発達段階に応じた遊びができる環境づくり

　　・ルール、問題解決のためのスキルを身に着ける

　　・郷土遊びや昔遊びなど、伝統的な遊びに親しむ。

３．夕食の提供

　　・栄養バランスと食の楽しみを両立させた献立やイベントの考案

　　・野菜づくりなどを体験し、食への興味を高める

　　・食事マナーや歯磨きなどの習慣づけ

４．社会経験

　　・地域での活動、遠足などにより、公共マナーを覚える

　　・体験行事などにより、仕事や職業への理解を深める

５．運営体制の構築

　　・関係機関との連携により、支援が必要な児童や家庭を早期に発見して支援を行う

　　・他拠点や専門家を招き、職員のスキルアップを図る

　　・日報の回覧やミーティングにより、施設のチーム力を高める

６．車両の配備

・お迎えの難しい家庭へのサポートや対象校区の拡大による利用児童の増加

７．施設棚の購入、設置

・施設の有効活用

2.事業内容詳細：

　下校して施設を利用するとすぐに宿題に取り掛かる習慣が身についた。学校と連携しながら子どもの特徴をつかみ、生活支援に役立てることができた。本の読み聞かせは毎日行い、チーム活動等を通じて子どもたち同士で声を掛け合う場面が増えた。

　遊びだけでなく、子どもが特技を発表し合う演芸大会も開いた。落語やピアノ、なぞなぞの披露などさまざまな特技を発表し、みんなでお互いの良さを発見した。

　夕食は提供されたものを食べるだけでなく、自炊にも挑戦し、食への理解を深めた。

　さまざまな社会体験を行った。地元大学へのキャンパスツアーも実施し、大学とはどんなところなのかを見聞して学びを深めた。

　学校だけでなく関係機関との連携を密にし、家庭ぐるみの支援が行えるよう体制を整えた。

　また、児童送迎用の車両を配備したり、施設の有効活用を図るため収納棚を設置したりした。

3.契約時事業目標の達成状況：

【助成契約書記載の目標】

1. 拠点利用児童の募集（申請時点で11名が登録中、2019年度9月末時点で15名、年度末までに20名の利用を目標とする）
2. 利用児童への居場所、読み聞かせ、学習支援及び食事など提供
3. 利用児童保護者との関係構築とニーズに応じた生活支援の提供
4. 対象校との連携強化と児童及び家庭に関する情報共有
5. 自己肯定感を養うためのライフスキルプログラム等の実施

【目標の達成状況】

1. 2019年度9月末時点で12世帯14名、2020年3月末時点で14世帯16名の登録があった（年度途中で家庭の事情により1名が退会した）。
2. 上述の通りの取り組みを行った。
3. クリスマスに親子クッキングパーティーを開くなどして関係構築に努めたほか、適宜困り事を傾聴し、必要な支援を行った。
4. 対象校の教諭と意見交換し合い、家庭により寄り添った支援を届けることができた。
5. 施設内でのプログラム実施に加え、キャンプなどを行い、困難を乗り越える力を養った。

4.事業実施によって得られた成果：

　自発的に宿題に臨む学習習慣が定着したことをはじめとして、自立に必要な力を涵養させるができた。

5.成功したこととその要因：

　子どもたちの学習習慣が定着した。やり抜くことの大切さを粘り強く教えた結果が表れた。

6.失敗したこととその要因：

　特になし。

7.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案：

　施設の運営に対し、利用中の親子が主体的になって参加する必要がある。そのためには今後、さらに利用者の連帯を強めていくことが求められる。保護者会の開催頻度を増やすなどを行い契機としたい。